

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

一般社団法人 日本保育者未来通信

②施設・事業所情報

名称：ラフ・クルー星川保育園	種別：認可保育所		
代表者氏名：吉田 加恵子	定員（利用人数）：		90（79）名
所在地：〒226-0019 横浜市緑区中山一丁目29番3-101号			
TEL：045-442-7546	ホームページ： http://www.laugh-crew.net/		
【施設・事業所の概要】			
開設年月日：2011年04月01日			
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社コミュニティハウス			
職員数	常勤職員：	19名	非常勤職員 4名
専門職員	園長：	1名	保育士： 21名
	看護師：	1名	
施設・設備 の概要	0歳児室：	1室	1歳児室： 1室
	2歳児室：	1室	3～5歳児室： 1室
	一時保育室：	1室	調理室： 1室
	調乳室：	1室	トイレ： 3個
	医務室兼職員休憩室：	1室	事務室： 1室
	屋外遊戯場（園庭）：119.54㎡		

③理念・基本方針

【保育理念】

「子どもの個性を尊重し、豊かな心を育て、たゆみない笑顔を創造します」
 子どもたちには、毎日がすばらしい発見、体験の連続です。
 私たちは、一人ひとりの気持ち、想いを大事に育み、多くの可能性が伸びていくように、。。
 本物に触れ合い、更なる発見を感じ取り、感受性がぐんぐん伸びていくように、。。
 そして、思いやりの気持ちとたくさんの笑顔で豊かな心が育つように、。。
 そんな想いを胸に、子どもたちの成長を見守り、感じ取りたいと願っております。

【保育方針】

- ・子どもひとりひとりが自分で考え行動できるような自主性・自立性を育みます。
- ・本物の体験を多く取り入れ、豊かな感受性を育みます。
- ・集団生活の中で、社会性を身につけ思いやりの心を育みます。
- ・落ち着いた環境の中で、生きる力の基礎を育みます。

④施設・事業所の特徴的な取組

【事例検討会、エピソード記録等を通して、多角的な視点で話し合い、実践につなげています】

年に3回各職員が事例を持ち寄り、事例検討会を実施しています。検討会では、各事例に対して職員が意見を交わし合い、具体的な関わり等の共有を行っています。これらの取り組みは、園全体での保育の共通認識にもつながっています。また、園では、エピソード記録を記入するためのノートを用意し、日ごろからエピソード記録を記入しています。日ごろのエピソード記録も踏まえ、3～4か月に1回程度、場面記録と呼ばれる所定の用紙を使用し、園での子どものエピソードを記入しています。場面記録に、園の職員だけでなく保護者も家庭でのエピソードを記入することで、子どもの成長を保護者と共有するツールとなっています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和3年 6月 10日（契約日） ～ 令和4年 1月 28日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	3回（前回の受審時期：2018年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

【一人ひとりの子どもが、見通しを持って遊び込める環境づくりが実践されています】

園では日ごろから、クラスミーティングや職員会議、またリーダー会議等を通して保育の振り返りが行われています。振り返りの中で、保育環境の見直しを積極的に行い、一人ひとりの子どもが遊び込める環境づくりに努めています。一例として、園庭では子どもの発達に合わせて身体機能が育まれるよう、築山の設置や、ストライダーや三輪車等の遊具を取り入れています。また、タイヤ等を置くことでひっくり返したり、上に乗ってバランスを取ってみたりと、さまざまな身体の動きを経験できるようにしています。砂場では、砂遊び用の川砂の他に、泥団子が作りやすい山砂を用意するなど、子どもの興味に応じて十分に砂遊びを楽しめるよう配慮しています。観察時は、戸外で子ども同士が砂の量や水の量を相談しながら泥団子づくりを行う姿が見られました。

室内では、ごっこ遊びのコーナーやブロック遊びのコーナー、また机上遊びのコーナーやくつろいで絵本を読むコーナーなど遊びの種類ごとにコーナーを分けています。各コーナーには子どもの遊びが深まるよう、手作り玩具も含め、玩具の種類や数が十分に用意されています。また、コーナーごとの遊びに応じて、遊びの関係性を踏まえてコーナーの常設する位置を決めるなど、遊びが発展し深まるよう環境が整えられています。製作コーナーでは、廃材を利用した製作にいつでも取り組むことができ、製作途中の制作物を置いておくことができるスペースも確保することで、遊びの連続性にも配慮した環境を整えています。セロハンテープ等を使う量についても、保育者が決めるのではなく子どもが自ら考え調節できるような声掛けをすることで、子ども自身が適量を把握し使用できるようになりました。また、絵本の大切さを職員間で振り返り、絵本コーナーを設置しました。絵本コーナーは、子どもの興味や季節ごとに担当者が絵本を入れ替え、子どもが片付けやすいよう絵本の種類ごとに色別のシールを貼っています。このような取り組みから、絵本コーナーは子どものくつろげるスペースになるとともに、年上の子が年下の子に絵本を読み聞かせ、文字への興味につながるなど、成長への見通しを持つ場にもなっています。

【子どもが自ら考えて、主体的に生活できるよう保育者が関わるとともに、環境を整えています】

園では日ごろから、子どもが自ら考え行動できるよう保育者が関わるとともに、環境を整えています。散歩の際に、「誰と手を繋いだらいい？」と、子どもが保育者に聞くと、「誰が空いているかな？」と答えたり、生活の中で、靴箱に靴をしまうときに何処にしまえば良いかが分からない子がいると、保育者は、「ここにしまふんだよ」などと答えるのではなく「どこに入れたらいいかな？」と一緒に探したりするなど、子どもが自分で考えようとする気持ちが育まれるよう配慮していました。その積み重ねもあってか、戸外から帰って食事までの支度は、保育者が一つひとつ声をかけなくても、子どもが自分のペースで主体的に行っていました。乳児のおむつ替えの際も、保育者が「お尻を上げて」など介助の前に声をかけ、できた際は十分に褒めることで、子どもが自ら介助に参加するよう関わっています。また、年長児の当番活動では、給食の際にテーブルを手分けして拭くとともに、給食の盛り付けと、給食後の食べこぼしの掃除や床の雑巾がけ等を行っています。掃除のやり方について、椅子用の雑巾で拭くことや机の下をほうきで履いてゴミを取るなどの手順をわかりやすく番号を振って文字で示すとともに、食器を片付ける際の重ね方などを写真で掲示するなど、子どもが自分で確認してできるよう環境を整えています。食事の際は、一人ひとりの子どもが、当番が盛り付けした給食を取りに行きます。その際も、取りに行く順路が整理され、子どもは慣れた様子で給食を受け取り、配膳していました。

年度末の進級の際は、2週間程度前から進級する部屋で生活するなど、子どもが見通しを持って主体的に生活できるよう様々な場面で環境を整えています。

【自己評価をもとに必要な研修等を受講し、職員一人ひとりの着実な育成につなげています】

園では、年に2回実施される園長との面談の際に、目標管理シートを使用し自己評価を行っています。目標管理シートでは、理念や方針の理解、専門知識や技術の習得、保護者支援等の項目別に示された内容に沿って5段階で自己採点を行い、自己評価にもとづいて、今後学んでいきたい分野や、園として期待すること等を共有しています。共有された内容と、園長、主任、リーダー、中堅、新任、新卒と段階ごとに求められる能力や、目標・到達点が記載された「段階別・項目別の到達点」を照らし合わせ、各職員に必要な研修を受講できる体制を整えています。研修は、職責ごとに応じた法人主催の研修、及び自治体等で実施される外部研修やキャリアアップ研修、また園に講師を招いての園内研修等、多岐にわたり積極的に受講しています。これらの取り組みにより、職員一人ひとりの着実な育成が行われています。

◇改善を求められる点

【把握された地域ニーズにもとづき、園独自の取り組みが期待されます】

地域の福祉ニーズについては、保護者代表、外部委員、法人代表、園長及び主任が参加し、年に2回実施される運営委員会や、自治体の園長会への参加、幼保小連携会議、区の園長校長会や私立園長会への参加を通して把握しています。把握された内容にもとづいて、一時保育の実施や区の主催で行う合同育児講座への参加、妊娠期支援として初めて妊娠される養育者を園に招く育児相談等を行っています。

今後は、把握された地域ニーズにもとづき、離乳食講座や遊びの紹介、わらべうた等を通じた親子交流会など、園独自の取り組みが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回、第三者評価を受審し、特に保育士の子どもへの対応において自主性を重んじた声掛けをしていること、絵本のコーナーの重要性や、指示語がなく、子ども達が自分のペースで自主的に行動している等、具体的な評価も頂きました。今まで私達が保育の現場で当たり前と思って携わって来たことが評価委員の方に高く評価して頂いたことで改めて強く意識づけられました。今後も今回の受審結果に驕ることなく今までの積み重ねを大切に捉え、職員一同、何事にも真摯に向き合い更なる保育の質の向上を目指して行きたいと思っております。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり